

マリへ出かけます

代表 坂場 光雄

この2年間はマリ共和国の治安の悪化ということで、現地活動はマリ人のトラオレさんたちが主体となって行われ、日本人が参加しての植林・苗木配布の活動はあまりできませんでした。日本にいれば、それなりにバタバタと仕事などに追われ、多忙な日々でした。

日本にいと、さまざまな情報量が多く、整理できないまま、流されていくような気がします。情報伝達は飛躍的に進んで、パソコンで検索すれば、マリの天気や気温は即座に分かるようになりました。今日のバマコの天気予報は雨。最高気温 35、最低気温 25 です。バマコに着く頃には最高気温が 40、最低が 28 との予報です。いつもの熱気がやってくる。身体を慣らして、健康には気をつけたい。

現地では、まずはトラオレさんやコヌマさんの活動への感謝。そして、村や学校には苗木を持って行き、人々の生活状況を見て廻ろうと思います。



苗木を植えるトラオレさん

また、これまで配布した村の苗木や学校林の生長、荒廃地植林地の様子も見てみたい。進行中の見本林は、バオバブやカリテ（シアバターノキ）ばかりでなく、多くの有用樹種を増やし、名札をつけるなども行いたい。

実を醗酵させてお酒をつくるマルラ (*Sclerocarpa birrea*.) は、南アフリカでは酒を作って販売しているとともに、種子の油がアンチエイジング化粧品として売られているそうです。マリではトミニアンでお酒に出会いましたが、種子の利用がどうなっているのかは気がつきませんでした。そのあたりも見てみます。



お酒が出来るマルラの実

村人はそのままで、大きな混乱があったため、さまざまな物資・資金などの流入があり、それをめざしてさまざまな人間の流入もあると聞いています。移動は十分に注意しなければならないと思っています。



苗木を配るコヌマさん

課題はいろいろありますが、あせらずに取り組んでいきたいと思っています。

坂場代表は5月19日に日本を発ち、マリに向かいました。帰国は7月23日の予定です。

マリの現場から

2年ぶりに代表の坂場がマリの現場に旅立ちました。
今回はファナからの最新情報を幾つかお伝えします。

今年も雨期が始まった

6月の初め、マリの南部でかなりまとまった雨が降りました。ファナ地域でも、いろいろな所がぬかるんでいます。

雨期の水の通り道では、通常降った翌日には水が引いてしまうものですが、数日経っても水が流れているところもありました。村人たちはこの雨で穀物の作付けの作業を始めました。

今年の作柄が良い事を祈ります。

混乱が続き厳しい状況の地域苗畑

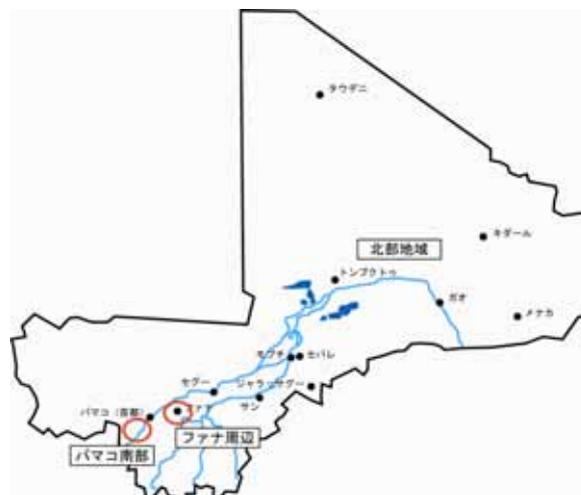
マリ国内の混乱で政府機関や援助団体、あるいは個人の植林事業が減りました。それらの苗木を育成してきた地域苗畑も、現在では生産を控えていたり、休業したりしているところもありました。

今回苗木配布のために苗木を購入しようと地域苗畑を訪れても、肝心の苗木が見当たらないということもしばしば。

とはいえ、常にコツコツと生産を続けている地域苗畑もあるので、それらの苗畑を中心に苗木を仕入れて、村人たちに配布しています。



地域苗畑（ファナ・カッセラ苗畑）



バマコ北東に位置するファナとバマコ南部で活動中

高さがまちまちなユーカリ林

ファナ地域では、活動が9年目に入り、いろいろな場所で灌木林の合間から顔をのぞかせるユーカリ林を見つけることができるようになりました。

活動開始当初から毎年一人一人にまとまった本数を配布している村では、植えた年ごとに生育の違う不揃いの林になっています。

ユーカリの林といえば均一の高さの一斉林が普通ですが、サヘルの森の支援でできた林はまた違う趣になっています。



不揃いなユーカリ林（ファナ・ニヤマトブグー）

マリ北部のゴッシなどに派遣された元現地スタッフ・上田さんは、現在、千葉県袖ヶ浦市の真光寺というお寺で働いています。真光寺は墓石を建てずに埋葬する「樹木葬」を進める傍ら、谷津田の開墾など里山再生活動にも力を入れており、上田さんはその開墾部隊のリーダー的存在として活躍しています。お寺での活動にはマリの現場で遭遇するのと同じような苦労や喜びがあったようで、今回はその様子を報告してもらいました。

千葉県袖ヶ浦市での里山再生の取り組み

樹木葬のお寺 真光寺から

上田 隆

野生生物との共存

この文章がみなさんの所に届く7月上旬、谷津田での作業は畦の草刈。築刈。中干しでしっかり水を抜く為、水路を掘ったりしていると思います。

この時期の谷津田は生き物の宝庫です。いろんなトンボが次々と羽化していますが、何トンボなのか、名前まではわかりません。トンボに詳しい人が来ると、「あれが居た、これがいた」って大騒ぎをしています。

そして、みんなが言うのは、「こういう谷津田が珍しくなって・・・」「開墾して、休耕田を田んぼに戻すなんて！」

調子に乗って、殺虫剤、除草剤という農薬を使わず、肥料も牛糞と竹を燃やした灰でお米を作っています。米の味が野生的だったり、安全だったりということもあるのですが、それより、いろんな生き物がどんどん増えてきます。そうそう、この季節はヘイケボタルがたくさん居ます。虫が増えるとカエルや小鳥がどんどん増えて、それを狙う、猛禽類とテンや狸が暮らしていけます。(イノシシ、ハクビシ、アライグマ、キョンなどの害獣は困りものですが。)



アライグマ

都市住民と里山

次に人との関わりについてです。地元の方々とのディープな関わりは後回しにしまして、まずは田植えなどの体験イベントで訪れる都会の人々のお話。

休耕田を田んぼに戻すという作業のお手伝いをお願いしたい。というコンセプトでイベントを始めたところ、田んぼの整備が進むと親子連れがどんどん増えて来ました。元々子供を集める気も無いので、叱り飛ばしていますが、なぜかそれが親に受けているようで、何度も何度もやって来ます。

お寺を走り回る子供たち、元気がいいのはもちろん結構だけど、田んぼにはマムシとヤマカガシという毒蛇と猛毒のスズメバチが居ます。道にガードレールありません。”話し合えば分かる。”とか、”法治国家だから法の下で。”という”理屈”が通じないのが自然です。身体のセンサーを敏感にして、危険を察知して回避しなければいけない世界です。完全にアフリカ式です。



イベントで使うクヌギの苗木

ちなみに、イベントのもう一人のスタッフも協力隊のマラウイ OB です。イベントには、IT 企業のセールスフォースさんが CSR（企業の社会貢献）活動で来ています。普段は六本木で仕事をしている方々が子供に泥を投げられて喜ぶ姿は、かなり健全です。普通の遊びに飽きたのかもしれませんが、都会の人々が里山に来て農作業をやる姿は、便利すぎる日本よりマリに行ってしまう、サヘルの森スタッフと同じです。

地元住民との関係

で、ここからが本題です。まったく農業の経験がなかったのに、今偉そうに他人に米つくりを語ってられるのは、周りに支えられたおかげです。

休耕田の開墾・米作りといった里山再生活動は、真光寺の分身である「上総自然学校」という組織が担っています。お寺の中の組織なので、檀家さん達のネットワークが元々できあがっていました。堆肥が欲しければ牛農家さん。コンバインの調子が悪ければ農協の機械部に檀家さんが働いています。最初は田んぼそのものを貸してもらいました。日々の作業は隣の田んぼのおじいさんにいろいろ教えてもらいました。

水源の横井戸（注：谷奥の斜面に水平に横穴を掘った房総地方特有の井戸）の位置も檀家さんの昔話が手がかりになります。より細かな情報を得る為のノウハウがありまして、これがまさにサヘルの森方式。「住んで学ぶ」です。

家に居ると「ちょっと手伝って」と御近所から呼び出されます。田植えの苗を運んだり、稲刈りの角刈りを手伝ったりする訳ですが、分かっているようでなんとなくやっていた作業が実は間違っていたり、もっと効率良くできたりと、これが大変勉強になります。 **横井戸の入口**



今では機械化された作業も昔の手作業をやっていた人達ですから、田植えの筋を付ける転がしをくれて、使い方を教えてくれたり、田車を貸してくれたりします。

足踏みの脱穀機をネットオークションで買ったのはいいが、どちら向きに回すのかも分からない。法事に来ていた檀家さんに教えてもらおうと会食の場に行きまして「足踏み脱穀機って、手前に回すんだっけ？向こうに回すんだっけ？」と聞くと、5人が同時に「向こう！」という答えが返ってきました。

その脱穀機を使っていると散歩をしていたおばあさんがわざわざやってきて、「あら、懐かしい。子供の頃やらされて大っきらい」思わず笑ったけど、機械化が進む理由は実際作業をしていてよく分かりました（疲れた・・・）。



足踏み式脱穀機

秋、田んぼにレンゲの種を撒いたという話をすると、隣のおばあちゃんが昔レンゲ畑で遊んだ話をしてくれます。農作業は食べる為稼ぐ為の作業だけど、その中に楽しみがあって、そういう営みが文化へとなっていることが分かります。

なんの因果か、アフリカで木を植えたあと、千葉のお寺で米つくりをしている訳ですが、失われつつある文化に触れ、少しは周りに伝えることができているようです。思えば、かなりラッキーな人生を送らせていただいている私でした。ではでは。

サヘル588

森 哲夫 (会員番号 588)

会員番号3桁突入です。(一気に3桁それも後半に来てしまいましたので、多くの方を飛び越しているのではないかと思います。必ずしも番号順でなければならないということもないのでしょうか。)

出会い

サヘル地域との出会いは、ドキュメンタリー番組の製作によるものでした。当時フランス語を学んでいたのですが、テレビのドキュメンタリー番組を制作しているプロダクションが、取材時にアルバイトの学生をアシスタントディレクターという名称で雑用から通訳まで何でもさせていました。早魃の取材のためサヘル地域に行ったのですが、ニジェールで遊牧民に彼らと同じ小屋を作ってもらい、そこで寝起きしながら撮影をしました。今の治安状況では考えられないことです。幸いマラリアに罹ることもなく滞在でき、サヘル地域とのお付き合いが始まりました。1974年のことです。

入会

その後、アルジェリアのプラント建設現場、ODAのニジェールや中央アフリカの井戸建設の調査団などの通訳の仕事を経て建設系のコンサルタント会社に入りました。入社後まもなく会社が加盟している海外農業開発の協会がサヘルの森(当時はサヘルの会)の講演会がありました。講演をした当時の代表の高橋さんに何かお手伝いできることはないかたずねたところ、会員になってくださいと言われ入会しました。1987年ごろのことです。

マリへ

入会后ボランティアとして国内でセミナーの企画やイベントに参加したりしていましたが、マリで治安の悪化により日本人スタッフが常駐できなくなったときがありました。そのためマリ人のスタッフに給料を届ける必要が生じ、会社の休暇をとってマリに行きました。そのときは、現在はサパと

いう団体での西アフリカの人達の支援活動もしている野澤さんとの二人旅でした。その当時の治安の悪化は今のようイスラム原理主義の影響を受けたものではなく、国内の種族間の対立に由来するものだったので、外国人の我々がトンブクトゥまで行ってスタッフに会うことができました。1991年のことです。

現在

2009年にコンサルタント会社を定年退社した後、「豊かな大地」というNPOの駐在員としてカンボジアに住むことになりました。カンボジアはアセアンの国の中でも安い人件費で海外からの投資を呼び込み、経済成長しつつありますが、内戦時に埋設された地雷と、ホーチミンルート遮断のための北爆による不発弾が今も残っており、地方に住む人々の生活に悪影響を及ぼしています。ポルポト政権時代に大量の同胞を、それも知識人から先に虐殺してしまったため、人材不足が深刻で社会の機能を阻害しています。教育体制の建て直しが急務ですが、一朝一夕ではできないことです。政府の徴税機能が弱く、外国からの援助と投資への依存度が高いことからの脱却も課題です。2013年カンボジアの駐在を終えて帰国しました。

アフリカも人口増加と天然資源の豊富さで今後の経済発展が期待されていますが、政情の不安定なところ、自然環境の脆弱なところに住む人々への目配せを忘れないようにしなければいけないと思う今日この頃です。

...会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつづつのドラマと想いがある。今は欠番の人の想いも積み込んで、会は前に進んでいきます。(サヘルの森)

特定非営利活動法人 豊かな大地

豊かな大地(GOOD EARTH JAPAN)は、主にカンボジアで活動を行っています。カンボジア地雷対策センター(CMAC)をカウンターパートナーに、現地各機関やNGO、住民とのコミュニケーションを通して農地づくり、農業訓練、インフラ整備などの支援を行っています。 <http://www.good-earth-japan.org/>

(編集注: ホームページからの引用)

国内活動報告(1~6月)

< 報告会・講演 >

- ・3/29 現地活動報告会(上原区民会館)

< 学校との関係 >

- ・2/1 東京女学館中学校「社会貢献学習」で生徒4名事務所来訪
- ・2/5 横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」

< イベント >

- ・1/19 第7回市民協働フェスティバル～まちだ地域活動カフェ～(町田市役所)
- ・4/25～29 アフリカヘリテージフェスティバル2014(相模大野中央公園)
- ・5/11～12 みどりとふれあうフェスティバル(千代田区日比谷公園)

< 定例活動 >

- ・1/18 谷中七福神、上野公園
- ・4/9 狭山公園、北山公園、正福寺
- ・5/17 羽根木公園、世田谷城址
- ・6/21 小岩菖蒲園、篠崎公園

牛乳パック回収

2月5日に神奈川県横浜市立浦島丘中学校の廃品回収収益金委託式に出席しました。生徒の皆さんが回収したアルミ缶の売却益(13,282円)と合わせて21,282円をご寄付いただきました。

パック回収量 570kg : 売却金額 7,980円

会員総会、現地報告会(3/29)

3月29日に東京都渋谷区の上原区民会館でサヘルの森会員総会と現地活動報告会が開催されました。

総会に先立って開かれた現地活動報告会では、ファナ地区の活動状況を派遣スタッフの榎本が説明しました。お天気にも恵まれ、20名の方にご参加頂きました。

続く会員総会には17名の参加があり、坂場代表から今年の活動計画について「マリの治安状況を見ながらスタッフ派遣を再開する」旨の説明が行われました。

懇親会にも15名が残り、スタッフと会食しながら現地の話聞く機会を持ってました。

No.94 2014.6 サヘル

まちカフェ(1/19)に参加

1月19日(日)に東京都町田市役所で「第7回市民協働フェスティバル まちカフェ」が催され、サヘルの森も出展しました。

会場は2階の端で人通りはそれほど多くありませんでしたが、土木関係のコンサルで海外の仕事をしていてリタイヤされた年配の方が自分にも何かできないかと熱心に話を聞かれたり、内モンゴルでNGOのスタッフとして活動していた方が植林活動について話を聞かれたりと会の活動に興味を示してくださる人もいました。

また、福祉や市民活動のブースも多いのですが、地域と協働した活動をしている「東京家政学院大学」や国内の里山保全の活動をしている「七国山自然を考える会」など、何か一緒にできそうな団体もありました。

物品販売では、ボランティアで制作していただいた新しいプリント布製品がきれいだと好評であったり、トンボ玉やアクセサリ一部が売れたりしました。

最後になりましたが、当方の手違いにも関わらず、ご配慮いただいた町田市市民協働推進課の担当者様、ブースを半分提供くださったまちだNPO法人連合会の皆様には心より感謝いたします。(榎本肇)

アフリカヘリテージフェスティバル2014(4/25~27)に参加

4月25日(金)~27日(日)に神奈川県相模原市の相模大野中央公園で「アフリカヘリテージフェスティバル2014」が催され、サヘルの森も出展しました。

今年は金曜日からの開催でした。金曜日は平日だったので、大盛況!というわけにはいきませんでした。他の出店団体の方とお話をしたり、ブースを見せていただいたりできました。

3日間ともお天気に恵まれ、土日は家族連れを中心に多くの方がご来場されました。

アフリカ関連のイベントということもあって、民族衣装などが売れました!

バオバブの実やロープなどの展示も大変好評で、「こんなに大きいのか?」「食べれるのか?」と、驚きの声が上がりました。

おとな子どもも興味を持って聞いてくれました。熱心に話を聞いて、ご寄付をくださる方もいらっしゃいました。(原梓)



民族衣装やバオバブの実を展示

みどりとふれあうフェスティバル (5/11~12) に参加

5月11日(土)、12日(日)に東京都千代田区の日比谷公園で「みどりとふれあうフェスティバル」が催され、サヘルの森も参加しました！

2日間、お天気にも恵まれ多くの方がご来場されました。みどり関係のイベントは、国際協力系のイベントとは違った面白さがあります。今回、初参加の「バオバブオブジェ」も、目立っていました。本物だと勘違いする方も多くいらっしゃいましたよ。

バオバブの実の展示にひかれて、声をかけてくださる方が沢山いらっしゃいました。

物販のほうも、新商品(携帯入れやティンガティンガ板他)を持ち込んでくださったので、より華やかな雰囲気になりました。

苗木も大健闘で、コロゴプリント布や、サヘルの森特製のバーニュ(アフリカプリント布)のエプロンがよく売れました。

アフリカヘリテージフェスティバルで、サヘルの森のエプロンを購入した方が、その後サヘルの森のHPを見てこのイベントを知り、遊びに来たとブースに来てくださいました。HPってすごいですね。

2日間、ご協力ありがとうございました！

(原梓)



バオバブのオブジェが目立つブース

キッチンサヘル 開催

~ マリ料理の講習会を開催します ~

7月27日(日)に神奈川県横浜市瀬谷区でマリ料理の講習会・キッチンサヘルを開催します。

マリ共和国出身の先生をお呼びして、現地でポピュラーな料理2品を教えてくださいたいです。講師はマリ北部出身のラフマトゥさん。教えて頂く料理は、羊肉とモロヘイヤを使った「マトンのファカホイ」、鶏肉と玉ねぎを使ったマリネ風の「チキン・ヤッサ」です。

準備の関係がありますので、参加希望者は、事前に電話かメールで事務局までご連絡下さい。

7月27日 10:00~12:30(9:30 受付開始)

会場：瀬谷地区センター 3階料理室

相鉄線・瀬谷駅から徒歩10分

参加費：2000円(食材費込み)

エプロンは持参、会場アクセス等、詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。

鶏肉と玉ねぎの薄切りに塩、コショウ、クミン etc.で味付け

レモン汁で作ったマリネ液に肉と玉ねぎをしばらく浸す

鶏肉に焼き目を付けてから、玉ねぎと一緒に煮込む



チキン・ヤッサの完成で~す！

定例活動(7~12月)

7月以降の定例活動の予定です。坂場代表とぶらぶら散歩を楽しんでみませんか？

8月のサヘルキャンプと合わせて、皆様のご参加をお待ちしています。

7月19日(土)10:30 集合
東京薬科大薬草園、里山公園

薬草園と多摩丘陵の公園を訪ねます。

京王相模原線・京王堀之内駅改札

8月23日(土)~24日(日)

サヘルキャンプ 栃木県鹿沼~足尾付近

昨年と同様に、足尾銅山周辺を訪ねます。自然に親しむとともに、荒廃地の治山・緑化について学びます。宿泊は鹿沼付近を予定、詳細はHPでお知らせします。

東武線・新鹿沼駅前に23日13時集合
(東武特急で浅草から82分)

9月20日(土)10:30 集合

荒川知水資料館、荒川赤羽桜堤緑地

荒川の水と緑について学びます。

東京メトロ南北線・志茂駅改札

10月18日(土)10:30 集合

哲学堂公園、新井薬師

文化的修養公園と名刹を訪ねます。

JR中央線・中野駅北口改札

11月15日(土)10:30 集合

多摩川台公園、宝来公園

多摩川の眺望地と古墳群を訪ねます。

東急東横線・田園調布駅西口改札

12月20日(土)10:30 集合

赤門、三四郎池と根津神社

東大と漱石ゆかりの池を訪ねます。

JR中央線御茶ノ水駅西口改札

* 定例活動、キャンプへの参加ご希望の方は事前にサヘルの森までご連絡下さい。

Club SAHEL がスタート

~ Club SAHEL は一般向けメーリングリストです ~

新生メーリングリスト Club SAHEL が発足しました。ご登録をお待ちしております。

これまで機関誌や総会資料の巻末に会員向けのメーリングリスト Club SAHEL をご案内してきました。

この度完全リニューアルして、イベントや報告会、定例活動、HPの更新情報などタイムリーに情報発信していきます。

サヘルの情報を漏らさず知りたいあなた、是非この機会に Club SAHEL にご登録下さい。

登録方法は簡単です

1) サヘルの森事務局(下記アドレス)あてに、件名:【Club SAHEL 登録】でメールを送る。(sahel-no-mori@jca.apc.org)

2) 「Google グループ: Club SAHEL に追加されました」という登録完了メールが届く。

3) これで登録完了。

七夕募金のお願い

夏季恒例の七夕募金へのご協力をお願いいたします。短冊にはサヘル地域の安定化への願いを込めたいと思います。



振込用紙を同封させていただきました。また、本年度会費がまだの方は、納入下さいますようお願いいたします。

会費納入にご協力ください

NPO法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000円
- ・維持会員 年 20,000円

特定非営利活動法人 **サヘルの森**

住所: 〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3

アーベイン平本 403 (株)エコプラン内

TEL: 042-721-1601 (留守電対応)

FAX: 042-721-1704

郵便振替口座: 00170-6-115054

HP: <<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>>

E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』No.94 2014年6月29日発行

発行人: 坂場光雄 / 編集: 高津佳史
